

スポーツ外傷等による脳脊髄液減少(漏出)症への適切な対応について



スポーツ庁

① 脳脊髄液減少 (漏出) 症

スポーツ活動中に頭頸部や背部等の外傷等が発生することがありますが、スポーツ外傷等の後に、脳脊髄液が漏れ出し減少することによって、**起立性頭痛**（立位によって増強する頭痛）などの頭痛、頸部痛、めまい、倦怠、不眠、記憶障害など様々な症状を呈する脳脊髄液減少（漏出）症とよばれる疾患が起こることがあります。



② 早期の適切な対応



スポーツ外傷等の後、頭痛やめまい等の症状が見られる場合には、**水分補給**や**横に寝て安静を保つ**こと、また、**医療機関で受診**をさせたり、家族に連絡して医療機関の受診を促すなどの**適切な対応**が**早期に行われることが重要**です。



③ 受診

「脳脊髄液漏出症」については、早期の受診が望まれます。安静と水分補給で改善しない場合は硬膜外自家血注入療法（いわゆるブラッドパッチ）*1（保険適用の対象）という治療法が選択される場合もあります。

保険診療として治療を受けるためには、診断に関する要件や医療機関の施設基準がありますので、適宜医療機関に相談いただくようお願いいたします。

*1 ご本人の血液を硬膜の外側に注入し、その血液で硬膜の漏出部位を塞ぐ方法。

